

わたくしたちの町
人口(男)……4,710人
(女)……5,142人
計……9,852人
3月中の転入……8人
〃 転出……33人
世帯数……2,204世帯
(3月31日住民登録人口調)

広報

あいかわ

第24回 全県植樹祭

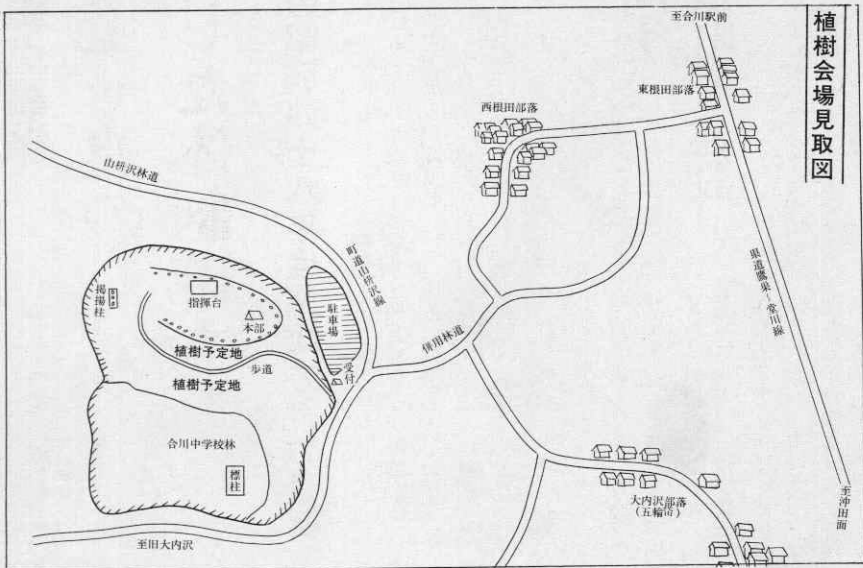
本町で開催正式決定

全世帯で梅苗木も植樹

第二十四回全県植樹祭は、この程開られた県緑化推進委員会で、四月二十七日(金)本町西根田部山根沢地内で開催されることに正式決定、町では「全県植樹祭合川町推進委員会」を構成し受入れ準備の万全な体制を整えております。

しあわせも きれいな 郷土も緑から

この全県植樹祭は県民・町民の緑化思想の普及を図り、明るく住みよい豊かな町づくりをめざそうとするもので、本町では三十五年度に町行造林制度を設けていらい進めていた、町営林事業一千ヘクタール達成、



植樹会場見取図

入会林野全面解消を記念に本町での開催を県と協議をすすめていたものであり、この町民あがりの四面緑化へのひたむきな意欲が高く評価され、この程、本町で開催することになったものです。

植樹会場は西根田部山の山根沢地内五ヘクタールで、町内外参加者一千人が予定され、三年生の秋田杉二千本、県知事を始めとする特別招待者は梅苗木を六〇本同地内に植樹し、記念としてキジ十羽を放鳥することになっております。

ひき続いて、式典会場の合川中学校に移り、学校造林・学校環境・緑化コンクール入賞校の表彰、学校植林の推進校に「みどりの文庫」を贈呈、造林団体と功労者の表彰、最後に造林の推進と県土美化のための宣言・決議を全員で行ない、第二次目標として、さらに二千ヘクタール美林造成に官民一体となって望むことになっております。

なお、町では合川町推進委員会を設け、これまでに事務局会議を数回開き、総務、式典、交通・車輛、植樹、会場・整備、案内、警備、救護の八部会を決め、開催準備を進めてきており、スムーズな運営体制作りを努めており、また、昨年十一月には植樹祭にさきがけて、同山根沢地内五ヘクタールに合川中学校生徒総出で、約一万本の杉苗の植樹を行なうなど意識の高揚を図ってきており、当日は全

町世帯で配布された「梅」苗木を毎戸で植樹し、全町あげて造林愛林思想を培うことになっております。

二十八議案可決 新年度予算十億二千万円 三月定例会終る

三月九日招集された三月定例会は、三月十六日まで八日間の会期で審議され、提出された昭和四十八年度合川町一般会計予算をはじめとする二十八議案、陳情、請願五件をそれぞれ可決・採択して閉会しました。

主な議案の内容は次のとおりです。

合川町消防団員の定員並びに任免に関する条例の一部を改正する条例の制定

定数三百十人であったものを二百人に縮小し、常時出動できる体制にしたものであり、また、団員の若がえりをねらいとして定年制を設けたものです。

共同墓地新設経営

これは、大内沢部落全戸移転に伴い、五輪倍に新設経営するものです。

町行造林契約の締結

羽根山、芹沢、三里の各部落と相互五割の分収によって六十一年間契約しようとするもので、全体の面積は九十六・三三ヘクタールと

なっています。

乳児医療費

二才未満児まで引き上げる

合川町では昭和四十七年一月から、一才未満児の乳児医療費について保護者が支払う一部負担金を助成してまいりましたが、昭和四十八年四月一日からは、それを二才未満児まで引き上げることにしました。

ただし、秋田県では、一才未満児まで助成対象とするので、手続き上若干の相違点がありますから、次の事項をご承知してお子さんの健康を守って下さい。



一、一才未満児の保護者の方は、被保険者証を持参して、役場福祉課から「乳児医療費受給者証」をもらって下さい。

二、一才未満児が県内の保険医療機関で治療を受ける場合は「健康保険などの被保険者証」と「乳児医療費受給者証」をもっていくと窓口で医療費を払わなくともよいことになります。

三、一才児以上、二才未満児の医療費については、合川町が単独で助成するものでありますから、福祉課より「幼児医療扶助費支給申請書」をもらって、医師の証明をうけ請

求して下さい。

家族全員が加入を ただ今受付中

秋田県交通災害共済組合では、不幸にして交通災害を受けた方に、直ちに共済金を支払う事業を行なっています。

共済掛金 一人、年三百円
共済期間 昭和四十八年四月一日から翌年三月三十一日までの一年間
申し込み 役場総務課
なお、生活保護世帯、七十才以上の老人、小・中学生、保育園児については、全額を町で負担いたしますので、申し込む必要はありません。



がわに

とかく消費は美徳とか。しかし、それが即ゴミ公害につながるのが現状である。まったく迷惑な話だ。

わが町でも雪消えとともにあちこちにタバコの吸い殻、紙くずの散乱と目にあまる光景が見受けられる。モラル以前の問題である。人間は考える輩なのだろうか、それとも言われてその気になる動物なのか……。何も東京の騒音、煙害にばかり目くらまらをしてはいけません。対岸の火と見すごしてはいけません。

身近な一つのチリも、積れば山となるのだ。山になつてからは遅い。

きれいな町作りは人の心もつるおわせ。四十八年度も春一番とともにスタートした。今年は一一人一人の自覚と力でゴミのないきれいな町づくりに参加しよう。



「老人憩の家」
ことぶき荘のご利用を

おわび

町広報第一九八号の「福祉課よりお知らせ」の「児童手当中「義務教育終了前」とあるのは、「十八才未満」の誤りですので訂正いたします。

今年予算と重点事業

農林商工一連の

安定した体制確立を

町長の昭和四十八年度施政方針の説明



島山町長

昭和四十八年度の予算案を主要議題とした町議会は、去る三月九日招集され、三月十六日閉会しましたが、新年度の予算案の提出に当り、町長は次のように町政の執行方針と予算の大綱について説明し、議会ならびにみなさんに、深い理解とご協力を要望しました。

町民福祉の向上で
住みよい合川町を建設

昭和四十八年度予算案審議を骨子とする三月定例町議会の冒頭に、所信の一端を申し述べます。

48年一般会計予算
十億二千九百万円

過疎、出かせぎの急傾斜のなかで町民経済・福祉は、頓に不正常な姿となり町民生活の混乱を招いている実情のなかで、近い将来の町の正常な在り方を、農林工商一連の安定した体制を確立するために苦心しているものであります。

特に、林業においての国有林野の経営の推移、農業における協業体系の確立、団地農産物の形成、大野台工業団地への工場導入の三つの柱は、本町の立地環境からくる必須の要点であり、特に工場導入の早期具体化は町民ひとしく願望するところでありまして、私は力点をこれらの諸点の推進に集中して町政を進めてゆく所存であります。

昭和四十八年度一般会計予算の総額は、十億二千九百三十六万円となりますが、前年度一般会計予算より五十三・三％の増加となります。その財源の内訳は、分担金・負担金二千三百三十五万五千円、使用料・手数料二百四十五万四千円、国庫支出金一億四千七百五十二万八千円、県支出金一億五千二百四十九万九千円、財産収入一千四百二十七万八千円、寄付金一千八百六十五万四千円、町債一億三千九百六十六万四千円、その他諸収入等で三千四百四十二万七千円、一般財源としては、町税・譲与税及び交付金として七千六百七十四万四千円、地方交付税

百九十八万三千円、自動車取得税交付金六百三十五万五千円及び滞納繰越分三万一千円となっており、町民税・固定資産税・電気ガス税の控除の引上げ、免税点の引上げ、税率緩和による減税額は三百九十九万四千円となっております。以上が歳入の内容の説明であります。

歳出について申し述べます。

大野台に憩の森

町営林事業は、新植一〇一、六五ヘクタール、補植七七、七ヘクタール、保育五、七二ヘクタールとなり、四十三万五千三百四十四円、四月二十七日に実施される秋田県植樹祭の開催費は二百三十一万一千円、新年度指定をうけた憩の森造成事業四百二十四万五千円、交通安全対策では百六十一万二千円、米内沢高等学校舎体育館建築等米内沢高校への負担金三百三十九万二千円、育英事業の北秋会負担金十

万五千円、公立合川高等学校組合負担金は地方交付税措置分として七千六百万円、広域市町村圏組合負担金九百九十五万五千円を夫々計上しておりますが、本町に予定されている事業としては四十九年度乃至五十年度に公式野球場の建設があり、新年度において用地の取得三ヘクタールを考へております。

又広報企画関係では、町政資料作成のため十二万五千円、広報発行に伴う経費として四十五万七千円、町政モニターにより広く町民の声を聞くための費用十三万四千円、その他各種一般陳情費及び過疎対策の調査等

社会福祉活動を広く展開

下水、排水溝を
年次計画で整備

民生費関係について申し上げます。

社会福祉宣言の町として社会福祉協議会の法人化に伴い、各社会福祉団体と緊密な連絡のもとに、中広い社会福祉活動を展開してゆく所存であります。

新年度においては、本年度郡社会福祉大会の開催地となっておりその協賛費十

万、大野台愛生園の隣地に建設予定の精神薄弱者授産施設建築補助金三百万円及び、救護施設建築補助金の継続分百万円を計上しました。

老人福祉対策としては、八十五才以上の敬老年金を二万四千から三万五千に引き上げるため二十七万五千円が町社会福祉協議会の助成金に含まれております。

ことごとく大会の開催費七十三万六千円、老人健康診断に要する経費三百五十人を予定し三十四万五千円、老人福祉電話設置費五台分として六万四千円、老人医療費七十歳以上を対象として一千五百六十万円、老人家庭奉仕事業に五十五万五千円、老人クラブ助成六十二万三千円、寝たきり老人対策として特殊寝台及び浴槽等各三台分四十三万五千円を措置し老人福祉予算の充実を図りました。

児童福祉対策として、少年団体ソフトボー

ル大会、ボランティア研修、下杉児童館運営費等に百三十五万六千円、街灯及び遊び場遊具の設置に四十三万円、福田児童館建築費二百五十二万八千円、遊び場用地取得費として四百二十万円を計上しました。

保育園運営管理費としては三千四十八万九千円を措置しましたが、保育料については国の基準もあり若干の引き上げが行われております。

児童手当は満十歳まで対象が引き上げとなり、百八十八人分として五百八十八万八千円を措置しました。

ことごとく大会の開催費七十三万六千円、老人健康診断に要する経費三百五十人を予定し三十四万五千円、老人福祉電話設置費五台分として六万四千円、老人医療費七十歳以上を対象として一千五百六十万円、老人家庭奉仕事業に五十五万五千円、老人クラブ助成六十二万三千円、寝たきり老人対策として特殊寝台及び浴槽等各三台分四十三万五千円を措置し老人福祉予算の充実を図りました。

児童福祉対策として、少年団体ソフトボー

ル大会、ボランティア研修、下杉児童館運営費等に百三十五万六千円、街灯及び遊び場遊具の設置に四十三万円、福田児童館建築費二百五十二万八千円、遊び場用地取得費として四百二十万円を計上しました。

次に保健衛生費としまして、町民健康管理に伴う諸集会・健康大学開設に要する経費として五十九万二千円、胃検診、循環器、婦人病検診等成人病対策費として受診者二千四百人分を予定し二百二十七万五千円、乳児検診及び妊婦栄養強化ミルク等母子保健対策費として

二十七万三千円、畜犬登録、に二百九十七万四千円、簡易水道施設事業会計に五十七万五千円を計上しました。

労働費は、出かせぎ者対策として連絡費及び健康診査費等二百八十九万九千円、中学校卒業就職者奨励のための費用八万八千円、新規に労働金庫予託金二百万円を措置しております。

農業委員会、農地等利用関係紛争処理、農地移動適正あつせん事業、就業近代化対策事業及び、農用地取得円滑化事業等に要する費用として九十九万三千円を計上し、委員の活動に期待しております。

国土調査法にもとづく大野台地区地積調査は一応完了しましたが、これに伴う地積図及び台帳の整備等に要する経費、特別用地室として登記事務促進のための費用七十一万五千円を計上しました。

農業政策

きめこまやかに
集団協業組織の育成を積極的に推進

畜産関係では、酪農組合、和牛組合等の畜産団体助成として十四万四千円、乳牛導入事業新規十頭、継続十頭分として二十一万六千円、和牛導入資金償還金二百九十一万二千円、種豚二頭分及び各種共進会、畜産防疫対策等に要する経費として十九万一千円、広域事業のと畜場管理費用負担金として二十四万三千円を措置して畜産振興を図ります。

農地盤整備事業関係については、前年度から施行されております農免道路建設事業負担金として百八十



一福祉優先の町をー 老人健康診断

次に農業振興費について申し上げますが、圃場整備後の第二次農業構造改善事業による大型農業機械の導入と、集団協業組織の育成を中心に取り組んでおります。先づ集団協業組合二十

集団に対し四十万、葉たばこ振興のため共同育苗組合助成等に三十二万二千円、養蚕振興のためモデル地区設定の助成等に七十二万九千円、天災融資利子補給金等百四十四万七千円、生活改善センター助成十四万四千円を計上しました。



大型機械による農作業

一万九千円、これは一期工事二千四百九十六米、二期工事千四百八十四米の事業費負担分として計上し、開拓道路補修事業として下杉から鷹巣町に通ずる大野台線の改良補修の調査費負担分として二百三十八万四千円、町単農道整備事業第二年度分として道城線に五十九万、一般農道整備事業の継続分金沢美栄線五百米の工事費七百八十四万九千円、新規に上・下道城を結ぶ農道舗装事業を二年継続事業の初年度分として二百三十七万五千円、土地改良区一般事務補助金として三百七十九万九千円、県圃事業に伴う事業補助金として二年次分三百三十一万一千円を措置し関係団体の事業の促進に処してあります。

次に新年度圃場整備事業について申し述べますが、町営圃場整備事業として上杉根下二十七ヘクタール

の事業費五千四百五十三万、経営整備事業として四十三万四千円、カントリー堤防工事補助金二年分の内初年度百万円を計上いたしました。

米生産調整について申し述べます。

四十八年度に本町に示された申込限度数量は四千七百十屯、目標数量で七百六十屯でありましたが、前年度より八十屯の減となり面積換算では五百五十八ヘクタールとなります。従って上杉・木戸石・増沢・雪田等で行われる圃場整備事業が五十八ヘクタール、前年の一般休耕が約百ヘクタールとなっており、本年度、本年も生産調整の個人割当は事務的に処理し、強制や督促は行わない積りであります。休耕田の管理については、関係団体の技術指導のもとに、問題を排除し、なるべく転作により明年より耕作条件を整えるように指導をすすめる考であります。生産調整費として通年施行による補償金及び、集団転作費として三百六十一万一千円を措置しました。

林業関係については、関の沢林道事業の助成二年次分として七十二万八千、森林組合労働共済費及び一般補助金として五十八万四千円、有害鳥獣駆除及び民有林造林コンクール等に十四万五千円、芹沢萩の沢林道建設事業は二ヶ年で施行されますが、初年度分延長約千メートルの工事費として一千三百九十四万一千円を計上しております。

雨により甚大な被害をうけましたが、その後の査定はほぼ要望どおりの決定になっております。まづ農業施設災害復旧事業は、三里頭首工、増沢溜池の二ヶ所総事業費一千二百七十三万九千円を計上しました。林道施設災害復旧事業は、関の沢林道、孫沢林道、焼山林道の三ヶ所分総事業費として四百六十六万四千円を予算化し復旧事業を促進いたします。

商工業振興対策としては、町商工会助成六十二万五千円、信用保証協会手託金五百七十五万五千円を措置しました。又昨年より天然資源開発公社が調査した調査結果が、旧大内沢部落周辺に有望な石油天然ガス層が判明、新年度早々県・町・石油資源開発株式会社との共同負担により総工事費九千二百万円を投じ、二千三百メートルのボーリングをすることに決定となり、それに伴う地元負担金として百七十七万五千円を措置し、その成果に期待をかけております。

土木事業については、道路維持補修費として原材料及び、植樹祭関連工事費用も含めて四百二十四万八千円を措置し路面整備に万全を期す所存であります。又、道路新設改良費のうち、舗装工事は李信川井線七百七米、李信川根山線千、高松線五百米、西根田神社線八百八十米、上杉下横町線四百五十米、駅前線四百三十九平方、金沢線二百米、北小裏線二百二十米の八路線分として四千三百三十五万五千円、道路新設改良工事は、西根田線二ヶ所一千九百九十米、三里雷線五百五十米、その工事費として一千六百三十八万八千円、測構改良工事は、

新田目下川原五百五十米、羽立五十米、李信八百八十米の三ヶ所分として三百三十五万、町道未買収用地取得費として四十二万、その他工事雑費三百七十二万を計上しその総額は六千三百二十三万三千円となり、町道事情は大巾に改善される見込であります。

次に橋りょう新設改良費として沢口二号橋延長五十二米、中員四米の工事費に八百一十千円、芹沢橋架替事業費は災害関連分として一千二百三十六万五千円、維持補修費としては三十万二千円を計上し小阿仁線の整備を図ります。

公共土木災害復旧事業ですが、道路災害復旧費は、小阿仁線二ヶ所四百七十五万八千円、河川災害復旧費は務沢川左右岸四百米、孫七沢左岸五百一十一米、欠田沢川左右岸二百一十米、芦沢川左右岸二十五米、増沢川五十米の六ヶ所分として三千二百三十七万九千、芦沢橋災害復旧費は、災害事業、河川事業及び公共土木事業により延長百六十五米、中員四米の永久橋が二ヶ年継続事業として査定になり、本年度事業費として三千二百三十七万九千円により着工することといたしました。

又、低所得者用の公営住宅建設を計画してきましたが、本年度より二ヶ年で二十戸分が認証となり、駅前に十戸分二棟建としてその建築費一千四百七十五万七千円を計上しております。

先ず、消防団の組織機構の整備については、永年の懸案でありましたが、常備消防設置により消防力の強化が図られたが、非常勤消防団においては長期間不在です団員の増加による消防活動の減退する対策について消防団幹部と協議をすすめてまいりました、その結論として、組織機構及び団員数を動力消防ポンプの配置状況に準じて改正する、消防団員の待遇を改善する、団員の定年制を実施する、施設の整備を図る、以上の四点とし今定例議会に關係条例及び予算等について審議をお願いしております。

具体的には本年十二月三十一日まで団員数は三百人とするが、勧奨による退任団員に対しては在任年数に応じて退職報償金を支給する、消防団員の給与及び手当を大中に引き上げることとし、それからの協議された所要額を夫々予算計上いたした。定年は、団長、副団長は満六十歳、分団長、副分団長、部長、班長は満五十五歳、団員は五十歳とし、四月一日から適用されることとなりますが、これらの一連の改正については議員各位の理解あるご協力を願う次第であります。又、施設整備費は望楼二基の移転工事十二万、防火水槽五基分三万、小型動力ポンプは東根田、羽立に配置する二台分九十二万、それに広域消防による組合負担金一千九百七十三万五千円を措置しております。

社会教育費は、新成人の式典費二十万五千円、青年学級、婦人学級、家庭教育、学級、養育改善婦人リーダー学級、若妻学級等に八十三万九千、文化財事業としては万灯火等の費用として二十四万六千、テレビ共同視聴施設整備費は杉山田、雪田地区分として九十一万七千、郡市視聴覚ライブラリー負担金七万六千円が主な内容となっております。公民館運営費は広報活動、読書文芸活動、町民講座、生活技術学級、自治活動奨励等も含め二百七十七万四千円となっております。又農業近代化セミナーの費用として四十八万一千円、保健体育費は、社会体育振興費六十五万、町民体育祭十五万、家庭バレーボール普及費、体育づくり運動費等に十五万円を計上しております。又商工セミナーの費用は十六万二千円となっております。

教員住宅建築事業については、本年度も引き続き二戸を予定し、布地買収費を含めて五百六十八万四千円を計上しております。

公債費の総額は七千五百九十五万三千円となりますが、この内訳は長期債元利償還分七千三百三十八万三千円、一時借入金利息及び公債諸費として二百五十七万五千円となっております。

特別会計について申し述べます。

国民健康保険事業は、医療費の引き上げ、老人医療費及び乳児医療費等の無料化に影響され、急速に保険給付費が増加し保険財政が均衡を欠き、本来制度的に目的税である保険税の引き上げによって収支対応を整えるべきであります。被保険者の負担軽減のため二年間保険税の据置をしており、一部を一般会計からの繰入れによって措置されておりましたが、前年度においては繰入金二百九十九万、国庫支出金を七千五百七十七万を見込み、保険税は二千六百八十八万六千円となり、これは一世帯当たり一万八千八百円となり、繰越金その他で一千九百八十八万六千円、総額一億一千六百四十二万二千円に補正されておりますが、然し、多額の実質赤字が予想され、各町村とも全く苦しい財政運用に迫られております。こうした実態のなかで本年度予算総額は一億一千三百六十五万二千円となり、歳出の保険給付費は一億二千三百五十五万、保健施設費二百九十一万八千、総務費六百八十八万、その他百五十万四千円となり、歳入財源として保険税の引き上げが余儀なくされ一世帯当たり二万八千円として四千六百七十七万二千円、国庫支出金六千八百九十四万四千円、一般会計から繰入金二百九十七万四千円、その他六万二千円となっております。

国の保険制度の運用の動向を見極めながら慎重に対処してまいり所存であります。

合川診療所の経営はようやく軌道にのり、健全な財務運営のもとに町民の健康保全と、医療の早期治療の役割を果たしているものと

西小学校(鉄筋二階校舎)を建築

診療所施設内容を充実

次に教育費でございます

が、

鷹巣阿仁教育事務協議会負担金四十八万九千、教育研究所費百十萬、小学校費では東小、北小国旗掲揚塔設置費二十万、東小プール塗装外四十万、西小体育館等の補修費二十万、南小スキー場整備費等に二十五万、北小校庭整備等に六十二万一千、教材備品購入費二百五十七万一千、特殊教育扶助等九十二万九千円が主なる内容であります。

西小学校建築事業ですが、鉄筋二階建総面積一千七百二十七、五二平方、本工事費八千四百六十九万七千円、附帯工事故施設等五百三十万一千、総事業費八千九百九十九万八千円を着工するよう措置しました。併せて給食施設も完備いたします。明年度は引き続き南小学校建築に着手する所存であります。

合川中学校費は、グラウンド総合整備調査費として五万、プール浄化装置九十万、校舎外壁塗装五十万、グラウンド側溝改修費として五十万、植樹記念庭園費三十万、教材備品費二百四十万、選手派遣費、クラブ活動費等に三十八万二千、通学助成費として八十一万六千、就学援助費等百二十三万四千

思っております。入院患者は一日平均十五人、外来患者は一日平均八十人を予定し、診療収入として五千八百二十万二千円を見込まれます。その他の収入を加えて総予算額五千九百八十六万二千円となっております。歳出は医薬原材料費として二千四百九十万円、特に施設内容の充実を図るために、旧建物の風呂場、便所等の改築及び塗装、環境整備のため工事費として二百六十五万円、又電話増設等に二十八万円等が計上され、なお老人患者を介助する臨時の補助職員を配置するつもりであり医療機関としての機能の向上を図る所存であります。

昭和四十七年度一般会計補正予算総額八億六千万円

昭和四十七年度補正予算の概要について述べます。

一般会計は補正第七号により総額八億六千三百二十九万五千円となります。本年度は七月災害により応急対策工事及び災害復旧事業の早期発注等により苦しい財政運用を続けてきましたが、各現地共々認定事業も決定し、事業費並びに管理費について基準若しくは財政推移の許容額のなかで更正いたしました。又、歳入についても各項目の調定見込額について細部の積算のものと把握し、歳入欠かんを生じないよう補正し、町財政の健全化に努力したつもりであります。

先ず歳入補正について申し上げます。

町税については、各税目の

簡易水道施設事業特別会計は、羽根山、合川駅前、新田目福田地区の水道管理運営費で総額二百八十七万六千円となっております。

これは水道料金二百五十五万、一般会計繰入金五十七万五千円、分担金等十五万一千円の収入を見込んでおります。

次に、宅地造成事業特別会計は、昭和四十五年度施行された孤森地区及び四十七年度施行された鳥屋沢地区の事業債の計画償還費で、予算総額一千八百八十七万七千円となり、土地対策として宅地分譲により住民の要請に応じているものであります。

助百八十八万六千円等の増額、林道事業の補助減額七十八万一千円、災害復旧事業負担金減額三千三百四十七万四千円となり、総額二千九百三十三万一千円を減額補正をいたしました。県支出金は、児童措置費負担金十六万円の増、老人医療費補助金二百八十三万七千円、養蚕主産地化推進対策費補助金五十四万二千円、社会教育費補助金三十五万五千円、県委託金等七十一万六千円を増額し、農業構造改善事業補助金七百八十九万七千円、林業費補助金等九十五万九千円が減額補正されてい

ます。その他財産収入で八百五十八万一千円、寄付金三百三十六万一千円、諸収入で百四十五万五千円を夫々増額し、町債については一般単独債及び造林債で若干起債額の変更が予想されますが、その外は決定された額を夫々計上しております。

歳出の補正について申し述べます。

職員の退職勧奨により、本年度中に九人の高令職員の退職が予定されております。之に伴って退職手当組合特別負担金が夫々の関係項目に措置しておりますが、総額で八百六十七万六千円となります。これを新年度において平年度化し比較してみますと、約一千万円の人員費の削減となり、行政水準の向上に大きく影響を及ぼすこととなります。その外、職員管理費関係では事務能力の向上のため、事務器具を購入するため百二十五万五千円を措置しております。

次に議会費では五十一万七千円を追加補正しました。総務管理費では、広報無線工事費の特定財源の変更等もあって二百五十万円、広

域市町村圏組合負担金二十三万九千円、秋田市に設置された公害分析化学センター出資金一十七万七千円、青少年の森整備地補償費、鷹角線北口期成同盟会、北秋会負担金等その他合算して三十九万九千円をそれぞれ計上しました。

なお、徴税費では三十三万四千円、戸籍住民登録費二万五千円を追加補正し、選挙費では委員会費及び衆議院議員総選挙費について国庫支出金の増額に対応し十三万一千円、並びに三月に行われる合川町土地改良区総代選挙費二十一万七千円を追加措置しております。

統計調査費についても指定統計の補助金の増に伴い、その額五万六千円補正いたしました。

社会福祉総務費の補正の主な内容ですが、老人医療費関係で国庫負担金を合算して八百七十五万九千円、民生児童委員活動費十五万六千円、老人クラブ助成金六千円、司法保護司会補助金二万四千元、家庭福祉員事業等夫々追加し、身体障害者奉仕員事業等の減額を整理し補正措置いたしました。児童福祉費では、児童館運営費等八万七千円、保育園運営費十萬五千円を追加、児童手当四十万五千円、及び母子福祉費九十八

万六千円をそれぞれ実績により減額補正しております。七月災害に対する配分金が追加になり二万八千円補正しております。保健衛生総務費は六万八千円、環境衛生費では火葬場組合負担金三十七万五千円が追加され、子防費三十万八千円減額補正し、塵芥処理費では鷹角線、阿仁広域市町村圏組合負担金が地方交付税算定で事業費補正として措置されたので全額三百七十六万六千円に、その他の費用十萬五千円を減額いたしました。簡易水道費では、施設事業会計、建設事業会計の繰入金七十五万六千円、その外、森吉町外四ヶ町村病院組合負担金十六万四千円を夫々減額補正しております。次に農業振興費では、葉

たばこ共同育苗施設補助金三十万円は一年繰り上げて措置し、養蚕主産地推進対策補助金五十一万七千円、合川町農業共済組合補助金二十万五千円を追加したのが主な内容となっております。

畜産業費では、広域市町村圏組合の畜場建設負担金六十九万四千円を追加補正しました。その他各特別会計については義務的な所要経費を措置し、業務の円滑を期するため補正しております。

以上、予算案の内容の概要の当面する重要な事柄について申し上げます。

阿仁合線の廃止問題は、一転して鷹角線の着工が本決りになり、その心配が除去

予定の国道一〇五号線とともに、鷹角・阿仁部の経済文化に及ぼす影響は極めて大きいと存じます。

東北新幹線は、関係市町村長、市町村議会議員、市町商工団体等を中心として一丸の陳情を繰返しておりますが、その前途は必ずしも大館弘前路線が有利となったとは断定できない実情であります。又近い将来予想される日本海縦貫道路秋田市以北の路線は大野台周辺を通過し、大野台にインターチェンジの設置が夢ではないと考えられ、関係町村とともに重大なる関心をもち、現段階では秋田市以北の路線の法制化について県の企画当局と内折衝を開始しております。

一方、大野台内陸工業団地の将来が、北鹿二市二郡の地域開発と密接なる関係にあるとする県当局の考えを基調とし、東北縦貫道路十和田インターチェンジを窓口とする北鹿の開発については、北鹿二市二郡の市町村長、市町村議会議員の間で二回にわたって懇談会が持たれたが、北鹿二郡を一つの経済圏とするのか、能代港を含めた米代川経済圏にすべきか検討の段階でありまして、このような国庫の開発方式はいずれも大野台の内陸工業の発展を基本とするものであることに、わが町としては注目し関心をもち、注目を注ぎたいと思っております。又羽根山林道から二ツ井町に通ずる峰越林道の開設について強く陳情したい所存であります。

公共土木事業については、鷹角川井堂川線の川井バイパスの改良舗装と、鷹角地内の改良舗装を促進しております。この路線の旧道舗装についても、川井地内二ヶ所及び合川駅前(営林署「山喜旅館」)の舗装の実現を図りたいと存じております。改良工事の県単独事業としては、駅前下杉間の側溝改良工事八百米、二ツ井森吉線増設地内百米と、二ツ井町地内の促進を図り、木戸石鷹角線は木戸石からの継続事業を推進いたしたす。又上杉、三木田地内の交通安全施設の改良と、道路照明施設を八基の設置を要望しております。懸案の合川駅前バイパスは、昭和四十九年度着工をめざし、新年度に用地の確保を図るべく準備中であります。合川森吉線は新田目地内の用地確保、補償等も新年度実現の見通しであります。

河川については、阿仁川改修の継続事業、阿仁川・小阿仁川の危険堤防補強事業の継続と新規を導入して水害の心配をなくするため努力する所存であります。

農地建設事業、農免道路の事業促進のほか、あらたに森吉町、鷹角町と三町で開拓道路補修事業の導入を図っており、順調に進めば新年度には、下ノ高等農

業学園間の道路の改修が行われる予定であります。

又、工業団地第二期としてあらたに約五十ヘクタールを大野台に取得すべく県と協議中であり個所を物色中であります。

大野台工業団地の用水確保、ならびに排水施設等の調査等に県は新年度当初予算に二千万円を投することになっております。

全県町村をもつて構成する秋田県町村土地開発公社が近く発足する予定でありまして、当町もこれに加入し土地の先行取得による公共事業の円滑なる推進を図る所存であります。

電信電話公社の電話自動化工事は順調に進み、愈々新年度は待望の電話自動化が実現の予定であります。

災害復旧事業のうち、町工事の残は、大部分が新年度に予算化されておりますが、県工事についても国が認定した工事の早期発注の促進を図る方針であります。

町民の要望の大きい電柱、電話柱の移転については、道路の場合は勿論、水田地内の場合も、又バスの運行時間の改善等についても引き続き、関係機関、会社と折衝をすすめます。

以上、概要の説明を終ります。この諸施策を確実に推進するためには、町民の協力、町民の参加がなくてはならない事柄が多く、私は、町職員の町民サービス精神をしっかりとしたものにて育てながら、町民の附託に応じてゆく決意であることを申し上げまして、所信の一端といたします。

なお、紙面の都合上、補正予算の一部は省略いたしました。

大野台発展を基本に

わが町の将来が決定

以上、予算案の内容の概要の当面する重要な事柄について申し上げます。

阿仁合線の廃止問題は、一転して鷹角線の着工が本決りになり、その心配が除去

予定の国道一〇五号線とともに、鷹角・阿仁部の経済文化に及ぼす影響は極めて大きいと存じます。

東北新幹線は、関係市町村長、市町村議会議員、市町商工団体等を中心として一丸の陳情を繰返しておりますが、その前途は必ずしも大館弘前路線が有利となったとは断定できない実情であります。又近い将来予想される日本海縦貫道路秋田市以北の路線は大野台周辺を通過し、大野台にインターチェンジの設置が夢ではないと考えられ、関係町村とともに重大なる関心をもち、現段階では秋田市以北の路線の法制化について県の企画当局と内折衝を開始しております。

一方、大野台内陸工業団地の将来が、北鹿二市二郡の地域開発と密接なる関係にあるとする県当局の考えを基調とし、東北縦貫道路十和田インターチェンジを窓口とする北鹿の開発については、北鹿二市二郡の市町村長、市町村議会議員の間で二回にわたって懇談会が持たれたが、北鹿二郡を一つの経済圏とするのか、能代港を含めた米代川経済圏にすべきか検討の段階でありまして、このような国庫の開発方式はいずれも大野台の内陸工業の発展を基本とするものであることに、わが町としては注目し関心をもち、注目を注ぎたいと思っております。又羽根山林道から二ツ井町に通ずる峰越林道の開設について強く陳情したい所存であります。

公共土木事業については、鷹角川井堂川線の川井バイパスの改良舗装と、鷹角地内の改良舗装を促進しております。この路線の旧道舗装についても、川井地内二ヶ所及び合川駅前(営林署「山喜旅館」)の舗装の実現を図りたいと存じております。改良工事の県単独事業としては、駅前下杉間の側溝改良工事八百米、二ツ井森吉線増設地内百米と、二ツ井町地内の促進を図り、木戸石鷹角線は木戸石からの継続事業を推進いたしたす。又上杉、三木田地内の交通安全施設の改良と、道路照明施設を八基の設置を要望しております。懸案の合川駅前バイパスは、昭和四十九年度着工をめざし、新年度に用地の確保を図るべく準備中であります。合川森吉線は新田目地内の用地確保、補償等も新年度実現の見通しであります。

河川については、阿仁川改修の継続事業、阿仁川・小阿仁川の危険堤防補強事業の継続と新規を導入して水害の心配をなくするため努力する所存であります。

農地建設事業、農免道路の事業促進のほか、あらたに森吉町、鷹角町と三町で開拓道路補修事業の導入を図っており、順調に進めば新年度には、下ノ高等農

業学園間の道路の改修が行われる予定であります。

又、工業団地第二期としてあらたに約五十ヘクタールを大野台に取得すべく県と協議中であり個所を物色中であります。

大野台工業団地の用水確保、ならびに排水施設等の調査等に県は新年度当初予算に二千万円を投することになっております。

全県町村をもつて構成する秋田県町村土地開発公社が近く発足する予定でありまして、当町もこれに加入し土地の先行取得による公共事業の円滑なる推進を図る所存であります。

電信電話公社の電話自動化工事は順調に進み、愈々新年度は待望の電話自動化が実現の予定であります。

災害復旧事業のうち、町工事の残は、大部分が新年度に予算化されておりますが、県工事についても国が認定した工事の早期発注の促進を図る方針であります。

町民の要望の大きい電柱、電話柱の移転については、道路の場合は勿論、水田地内の場合も、又バスの運行時間の改善等についても引き続き、関係機関、会社と折衝をすすめます。

以上、概要の説明を終ります。この諸施策を確実に推進するためには、町民の協力、町民の参加がなくてはならない事柄が多く、私は、町職員の町民サービス精神をしっかりとしたものにて育てながら、町民の附託に応じてゆく決意であることを申し上げまして、所信の一端といたします。

なお、紙面の都合上、補正予算の一部は省略いたしました。



一大野台内陸工業団地工場導入への体制も着々と築かれる